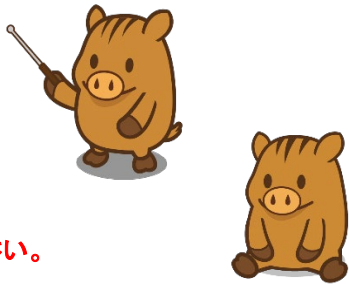


交換留学(派遣) 帰国報告書

皆さんが無事留学を終えられたことを嬉しく思います。本報告書は以下の目的のために使用されます。
① 皆さんの留学に関する状況を把握するための資料です。
② 今後、交換留学プログラムを改善するための重要な資料となります。
③ 留学を考えている後輩達のための有益な資料となります。留学経験を共有するために、ぜひご協力ください。



本報告書は帰国後、1ヶ月以内に写真データと一緒にメールで提出してください。

あなたの情報(本報告書を閲覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	ウィーン経済経営大学
留学先での所属学部・研究科:	経営学・経済学部
留学先での在籍身分:	パッチェラー留学生
留学期間:	2025/09/01-2026/06/24
神戸大学での所属学部/研究科:	経営学部
学年(出発時):	3回生後期
帰国日:	2026/06/27
本報告書記入日:	2026/6/27

1. 留学先大学について					
1-1	受入許可書 (Acceptance Letter) を貰えた日	4月 19日(には手元にありました)			
	参加必須のオリエンテーション日	9月 8&9日			
	学期:	①	10月	1日～	1月 19日
		②	3月	1日～	6月 17日
		③	月	日～	月 日
		④	月	日～	月 日
1-2	留学先大学の特長、人気のある分野等について記入ください。				
1-3	留学先大学のサポートについて記入ください。				
	語学面でのサポート:	Tandem プログラムへの参加をおすすめする。日本語を学びたい人と交流できる。			
	勉学面でのサポート:	教授は熱心な方が多く、授業前・中・外と丁寧に質問に答えてくれるだろう。			
	精神面でのサポート:	キックオフイベントで説明があると思うが、留学生のメンタルには丁寧に向き合ってくれていると思う。とりあえずinternational officeへ連絡するとよい。			
	住居・生活面でのサポート:	生活に関してはEBNという留学生コミュニティへ参加してちょくちょく情報を盗むのがいい。			
	課外活動のサポート:	EBNのイベント、カルチャラルプログラム、コンサルサークルなど活動の幅は拡張し放題。			
1-4	近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。	クリックで別シートへ			

2. 住居について		
2-1	住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気を付けること等)	OEADで申し込むのが無難かと。ただ友達とエアビで数カ月単位で借りたり、現地の人脈を上手く使って格安の寮を見つけたり工夫次第で安くはできる。

3. 生活について

3-1	インターネット接続環境について	
	住居内のインターネット接続可否、プロバイダー、料金等について記入してください。	なし！備え付け！
	大学内のインターネット接続可否(wi-fi)等について記入してください。	パーフェクト！
3-2	医療について	4回ほど風邪を引いた。
	留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。また、健康管理や衛生面について特に注意すべき点について教えてください。	全てOssmaさんにお世話になり、病院の手配、自宅受診の可否の確認、通訳さんの手配、タクシーや薬代の請求方法の確認など、丁寧に確認してくださった。
3-3	銀行口座等について	現地口座開設:Ereste bankでstudent accountを当日1時間かからずに作った。
	留学先でお金を引き出す為にどんな準備・手続きをしましたか。(現地口座開設、キャッシュパスポート等)	wiseに日本の口座から日本円を送金し、ユーロに変換。

4. 経費について(奨学金、留学費用)		
4-1	奨学金を受給していた場合、奨学金名(財団名等):	Jasso&双日奨学金
	支給額(円/月):	11万円+40万円の一時金
	その他(渡航費等の支給):	1万円の渡航費の支給
4-2	留学期間を通して必要だった費用を記入してください。(概算で結構ですので、円価で記入してください。)	
	航空運賃:	25万円(往復)
	住居費:	(月額) 135000円 × (留学月数) 10ヵ月 =1350000円
	食費:	(月額) 60万円 × (留学月数) 10ヵ月 = 600000円
	保険料:	35000円
	旅行:	565000円
	その他:	0円
	合計(留学期間全体の費用):	2800000円

5. 異文化体験について		
5-1	留学先の文化・社会(習慣の違い等)について記入してください。	ウィーンの現地学生は一般のアパートを借りているので家でのパーティーがよく行われる。後傘を差さない。リンゴをかじりながら歩く。
	大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトを持ちましたか。	ウィーン日本人会の重鎮の方々やウィーン大学日本学科のWakaiというイベントで知り合った学生の方々。
	課外活動(ボランティア、インターンシップ、アルバイト等)はしましたか。	友人の紹介で日本関連イベントのボランティアをやらせていただいた。
	留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。(安全性、外国人への態度等)	自分は基本的に身の危険を感じることはなかった。ただ10区とU6ラインは治安があまりよろしくないの一人で行くことはおすすめしないと現地のフィリップが言っていた。

6. 就職活動について		
6-1	留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、どんなことをしたか教えてください。	3月くらいからオンライン面接。(5年卒業のため第二セメスターから就活を開始)

7. アドバイス、振り返り		
7-1	現地で参考となった留学先国の情報(出版物、ホームページ)を記入してください。	現地の日本人の方からの一次情報。(紹介できると思います。)またセメスターキックオフのときに紹介のあるウィーン市のサイトやインフルエンサーを要チェック。いろんなイベントが年中行われている。
7-2	現地では手に入らない物、日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。	本。現地にはまず日本語の本はないしあっても高いので、紙派の人にはおすすめ。パリのブックオフにまで買いに行きました。
7-3	留学することによって得られたことについて記入してください。(語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等)	思い出という宝物。
	語学力について、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。	留学前:(IELTS7.0) 点 → 帰国後:(取得していない) 点
7-4	振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。	ドイツ語を理解できずに、列車が方向を変えていることに気が付かず飛行機を逃したこと。寮の洗濯機が止まるも解決策がわからず洗濯ができなかったこと、家の電子のカギが反応しなくなり締め出されたこと。
7-5	留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。	はい。留学先との事務的な手続きなど見えないところで多くのサポートをいただいていると考える。他校の学生に聞くと、大学からのそのようなサポートは特になく基本的に学生で手続きを進めなくてははいけないらしい。
7-6	本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。	ぜひおすすめさせていただきたい。合法的に海外へ飛び出していける貴重な機会になると考えるから。
7-7	留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。	(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)
	・留学先大学の授業の「質」(内容, レベル等)に満足しましたか	4
	・留学先大学の学生サービスに満足しましたか	5
	・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか	5
	・住居の「質」(広さ, 料金等)に満足しましたか	3
	・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか	3
	・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか	4
	・留学全体の総合的な評価	4

家に帰るまでを留学とするならばまだ私には40時間の留学が残っているが、ウィーン国際空港のベンチに座っている今、この気持ちが熱いうちに書き留めておこうと思う。ただESを書きたくないからであるがもう少しだけ留学を楽しませてもらう。

留学を終えると恐らく何を学んだのかと多くの人から聞かれると覚悟しているが、そんなものわからないですとお答えしたい。専門性や具体的なスキルが身についたとも自信を持って言えないし、英語もドイツ語も格段に上手くなったわけではないし、明確にこれに時間を費やしましたといえるほどの活動もしていない。授業に震えながら行き、案の定スクリプトをすっ飛ばすほど緊張したプレゼンを終え、友達の友達と一緒にクラブに行き10分しか喋っていないのにショットを片手に一緒に踊り、帰りにはケバブにかじりつきベットヘダイブするという、少しの言語的ストレスを抱えながら新しい友達に出会い現地の食べ物をなめつくす。そんな日々の繰り返しであったと思い出す。もっと適切な振り返りができるかもしれないが、何を学んだのかを今言語化できるほど留学は噛み応えがありすぎる。この先生きていく中で、ふと「留学を得て自分変わったんだな」と実感することを楽しみにしながら過ごしていきたい。

そんなまともりょうのない留学がいかにして始まったかを思い出すと、間違いなく留学最初にして最難関「M35」の申請であった。これはウィーンに3カ月以上滞在するなら必須の学生ビザでありウィーンに来る留学生は出国前からその手続きに震えながら準備をする。ウィーンに到着し、いざ日本で用意した日本語・英語の書類を両手に市役所でビザを申請する。そこでは主に事務的な手続きを済ませれば晴れて一時的なウィーン市民となるのであるが、突破のポイントは主に3つある。1つ目は戸籍謄本や犯罪証明書をもってして「あなたは誰かを証明する」ことである。これまでの20年間でどんな人間であったのか、どこから来て、日本で何をきて、どんな人であるのか、「あなたの過去」をきちんと伝えなくてはならない。次はウィーン経済経営大学からのノミネーションレターと在籍証明書を武器に「あなたはなぜウィーンに」を熱弁する。学生として神戸大学からウィーン経済経営大学にノミネーションされました、留学生として10カ月お世話になりますと、「あなたの今」を伝える。そして最後には、親の資金証明書や奨学金受給証明書を手渡し「私は円安とインフレの中ウィーンでの生活を10カ月耐えられる」こと、そして大学からの書類を手に「10カ月後にはおとなしく日本に帰る」ことをプレゼンする。留学の終盤とその後、つまり「あなたの未来」を伝えるのだ。このようにM35の取得はウィーン留学の最初の関門ではあるが、そのビザを取得した日にはそれでしか味わえない喜びがある。そして今このM35について振り返っていると、私の留学もまさにM35的留学であったように思う。常に自分について向き合う日々であった。

「わたしは何者か」については新しい環境で、日本人がマイノリティな環境に身を置くことで初めて腑に落ちてくるような感覚があった。留学に来る前は異文化コミュニケーションにおいて文化や言語の違いというあまりにも粗すぎる考えをもっていたが、こちらに来て例えば授業のプロジェクトで1日で仕上げるものもあれば、2週間、3カ月と長いスパンをチームとして共にしたとき、友人の友人のハウスパーティーに招かれたときなど、そのとき感じた異文化という大きな壁に直面する日々だった。いくら英語で自分の意見を伝えられたとしてもあくまで日本人という非ネイティブとして扱われているんだなという実感や、英語が上手かったらもっと話が進んでいたんだろうなとお互い感じた瞬間、ああ今ノリを外したなという不甲斐なさなど、今後その壁を感じなくなるまで果たしてどれくらいの努力と時間が必要なのかと考え絶望していたときもあった。ただ今思うことはその壁を理解すること(体感すること)を経た後は必ずしも超えなくてもいいのではないかということだ。立場をわきまえるほど窮屈になる必要はないが、グローバルな環境では日本人として何ができるのか、日本にいたときでも今いる環境でどんな価値を出せるのかと、常に考え実践すればそれでよいということ。そう考えてしまえば立ち回りなどを変に考えることなく自然と壁を気にせずコミュニケーションが取れるし、結局は皆人間で合う合わない人がいるのは当然だしライフイズビューティフルだよなと勝手に納得できる。

そのように自分に向き合うということをしてみた次は、「ウィーンで今何をすべきか」である。自分はある程度ルーティーンを保って生活することに喜びと安心を感じるタイプではあったが、留学に来ていたという特別感を言い訳に今までの日常をぶち壊してみた。夕方からは課題をやるようESを書こうと計画していたが、夜遊びに誘われたら即答でOKしたし、全くもって楽しく英語で会話できる自分が想像できない中でI would love toとたいして行きたくもないのにOKしたし(勝率は8割と悪くなかった)、睡眠命の自分にとって信じられない12時間のヤコバにも乗った。その甲斐もあって後悔せずいろんな経験をできたことに充実感を覚えながらも、改めてある程度「自分の生活」を維持することも自分にとって大切だと感じた。そして一番の学びはその生活を一度壊してももう一度作り直せることだ。どうしても同じ環境に居続けると良かれと思っている習慣も続いてしまうが、定期的に見直しアップデートすることが大切だと考える。そして留学はその習慣を壊す一つのきっかけとなり得る。グループで唯一の日本人として活動すること、海外の人と一から関係を構築することなど新しい環境に飛び込むということは今までの習慣・価値観を疑うことそのものであった。今留学を終えて改めてどんな生活をしていこうか絶賛構築中である。

そして最後は「私の未来」。10カ月間目の前の生活に向き合い続けようとして駆け抜けた3月初頭、就活という難敵が目の前に立ちはだかった。ようやく海外の生活・価値観にも慣れ始はじめていた矢先に日本社会の真骨頂ともいえる就活のお出ましである。それまで日本にいたときの自分と海外で色んな価値観に触れて慣れてきた自分を見つめ直す良い機会となった。私自身中学2年生と比較的早い時期から大学生での留学を到達点として過ごしてきたのだが、留学中盤に「留学もう少しで終わるんだな」と実感したときずっと目的のようなものを見失った時期があった。日本での大学の授業では留学に向けて奨学金を得るために良い成績を取るなど、留学という目的が何事にもよい動機として働いていたのだが、その留学そのものをしているとその動機がなくなったしまった。グループプロジェクトでアベンディックスを提出ぎりぎりまで埋め尽くそうとするグループメンバーの高いコミットメントや友達の語学力や知力などに圧倒されながらも、うまく行動に起こす動機が見当たらなかったのだ。そんな日々を送っていた中、timesenseという概念に出会った。これもまた縁でウィーンで異文化適応の研究をされている慶応大学の教授とお話をする機会があったのだが、その際に特に欧米人と日本人では時間感覚が異なるのだと。日本人の方がより将来、未来に焦点を置き、欧米人は比較的現在よりに時間感覚を置いているのだという。今まで目の前のことより将来のことを優先して生きてきたような気がするし、実際にその将来であるはずだった留学が終わりかけてきたときに自分の焦点の置き所が見えなくなった。勿論欧米の人もキャリアのことについては考え将来のために生きていると理解しているが、どちらかという今があつての未来という感覚がする(自分は未来があつて現在すべきことがわかるという逆方向)。この考えを実践してみようと、目的が明確になっていないながらも今なんとか勉強してみたいと思えたドイツ語の授業を5月から取り始めたり、とりあえずグループに貢献しようとして一日課題に向き合ってみたりしてみた。飛行機に乗り遅れてみたり、怠惰すぎて前日までバスを取らずに従来の2倍の運賃を払ってみたりもしてみたのだが、どれも将来に繋がるでしよう和前向きになれた。

こんな感じで私のM35的留学が終わりを迎え色々と言葉に起こしてみたのだが、やはり「留学で学んだこと」みたいな脈絡もない質問をされると回答に困る。変に言語化すると陳腐になってしまう気がするし、今後の人生の節目節目で生きてくれる、そんなものであると思う。そして留学というのは留学という言葉でまとめてしまうには切ないほどに無数にあるものである。出会った人、訪れた場所、住んだ寮、乗った電車、恋に落ちた相手、授業で隣に座った学生。M35の手続きですら、市役所の担当者によって難易度が変わるのであるから、誰一人として同じ留学を歩めない。

3500字も書いているとそろそろ飛行機が次の目的地に到着しそうである。留学について改めて8時間ほど振り返ったのだが、仮に明確に成長をしていなかったとしても落ち込まない自分がいる。強いて言うのであれば、私が留学で学んだことは「答えや成功/失敗経験を持たない目の前の大海原に体を投げ出し、その広さ・深さに絶望しながらも自分ではできるのだと錯覚し、足を描き続ければ、気が付けばなんとか浮いていられる」という自身である。そしてそんな自分に機長からのアナウンス。締めはgood luck。これから留学される方と、留学先で出会った友達と、将来の自分にgood luck!

9. 留学経験の共有について		
9-1	あなたの報告書の一部を引用して、本学の印刷物やウェブサイトに掲載することに同意しますか？	はい
9-2	あなたの写真を本学の印刷物やホームページに掲載することに同意しますか？	はい
9-3	学部のウェブサイトへ報告書を記載します。留学を検討している経営学部生があなたに連絡を取る事に同意しますか？	はい

ご協力ありがとうございました。本報告書は大変有益な資料になります。

1-4 近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数／週	留学先での単位数	授業での使用言語	履修している学生数	予習、復習、テスト等の成績評価についてアドバイスも含めて教えてください
1	Negotiation Strategies and Techniques. A case study Approach Based on the Harvard Program on Negotiation	Dr. Manfred Hüchel	360/回×6	4ECTS	英語	20	とにかく発言すること。用意を怠らずに複数のパターンを準備し交渉に備える実践型授業。元レッドブルのマーケティングトップのオーストリア凱旋授業だ。
2	Presenting in English: Getting your point across with confidence	Kurt Anton Uebelhoer	180/回×4	2ECTS	英語	20	こちらもとにかく発言すること。ビジネスの文脈での英語の活用をネイティブ教授と現地学生と学んでいく、ビジネス英語リアリティーショーだ。
3	IB:Business Project: International Energy Strategies	Dr.Martin Schwarzbichler	240/回×7	6ECTS	英語	30	こちらはファイナンス×エネルギーを実務経験バリバリの教授に丁寧に教えてもらう超優良授業。五大商社への出発駅だ。
4	From Strat-Up to High Growth Firm: Value Creation	Katerina Hällström,	105/回×8	6ECTS	英語	25	毎回の課題を丁寧にこなしていくこと、そして授業中に発言しまくること。財務諸表を一から作る練習を強制的に作ることができるファイナンスの公文だ！
5	Advanced Strategic Management	Sebastian Priestersberger	300/回×6	6ECTS	英語	25	全てオンラインで教授も生徒も朝が早すぎるのかローテーション。とりあえず発言してスライドに沿ってテスト勉強してればよい。早朝ウィーンFMファイナンスラジオを教授が週替わりのローテーション。
6							
7							
8							

9							
10							

・授業(カリキュラム等)について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

WUIは少人数のインタラクティブ型授業/世界各国からの教授や実務経験者の授業/現地企業やコンサルティングファームの方の出張授業が特徴なビジネススクールである。より概念をなぞっていきたいのか、どんどん問題やタスクをこなしていきたいのか、プレゼンなどグループプロジェクトに取り組みたいのかをしっかりとシラバスで確認することでミスマッチを減らせる。IB系は現地学生と教授のやる気・質が二・三段階高いと感じるのでとりあえずIBは入れておくことをおすすめする。興味深い授業がありすぎて困ると思うが、抽選で普通に落ちたりするので安心してもらって大丈夫だ。